

## 震災後のわが社

### ～ 被災地再開事業所紹介 ～

# タニコー株式会社 (福島小高工場)

所在地：南相馬市小高区

### 事業内容：

業務用厨房機器及び関連機器各種・移動型・据置型ステンレスタンク、ポルカプレート、システムキッチンの製造、販売、設計、施工、及び海外厨房機器の輸入販売



### 「新たな成長を視野に入れた事業を」

弊社は、本社を東京都品川区におき、福島県内には南相馬市の福島鹿島第一工場、福島鹿島第二工場、福島原町工場、福島小高工場と、いわき市にいわき工場の5工場が稼働しております。

平成23年3月11日、東日本大震災が発生し、東京電力福島第一原子力発電所の事故により、福島県内の5工場が一時閉鎖となりました。

旧警戒区域の小高区は東京電力福島第一原発から20キロ圏内、多くの企業が避難した土地で、区域再編から一年で小高工場の事業再開に向けて活動を開始しました。

「再編1年 地域復興 新生タニコー」を復活のテーマに掲げ、大きな被害を受けた小高工場の設備を一新、他の工場に避難させていた従業員を呼び戻して生産を再開しました。

再スタートの原動力は「地域復興 再生」「歴史あるタニコーの製造拠点を途絶えさせない」という従業員の強い意志でした。

再開するまでの道のりは陰しく、小高工場では地震により完成品が倒壊、材料も崩れ落ち、外壁やガラスが割れて飛散し、エレベーターや、駐車場の一角も崩れました。さらに原発事故による混乱。周辺企業では、撤退、廃業、解雇などの噂が飛び交い、タニコーの従業員にも動揺が広がりました。しかし、震災の約一週間後に現地入りした弊社谷口社長が「全員の雇用を必ず守る。」と激励を掛けました。震災時から県内で指揮を執る弊社中野取締役は振り返る。この一言で社員の気持ちは落ち着いた。「頑張ろう」という気持ちになり、再開に向けて加速した。

その後、小高工場から県内の他工場に人員を振り分けるとともに、福井県大野市の工場へ、北海道岩見沢市の工場へ異動させ、再開までの雇用を守りました。

さらに、震災前は工場ごとに製作する製品が限定されており、それが震災により弱点として露呈してしまいましたが、生産ラインや技術者を異動することで繁忙期の受注に対応しました。こうした柔軟な対応はリスク分散、多品目製造、生産性向上という、震災後の「新生タニコー」の経営方針の基礎となりました。

小高工場には電熱機器が主要製造品だった元の姿ではなく、「新生タニコー」の中核を担う事を求められ、大型給食設備や医療品洗浄など、新事業対応のラインを備えるとともに、全国の工場にステンレス材を供給する拠点の役割が設定されました。さらにふくしま産業復興企業立地補助金を活用し、設備を一新する計画をたてました。

平成24年4月16日、警戒区域が解除された小高工場のポールに社旗が掲げられました。国道六号線から旗を見つけ、工場の敷地に入ってくる人もいました。

「日本人は旗に敏感。『本当にやるの？』と聞かれ『やるんです。』って答えました。」と中野取締役は振り返る。「タニコーさんがやるなら、俺も頑張らねば。」と語る小高の事業者もいました。

小高工場の雇用については、震災前の弊社および関連会社の人員を取り戻すことが出来ました。希望を聞いて戻れる社員から移転先から呼び戻し、津波などで自宅を失った人には借家や仮設住宅を紹介し、また、人材確保の為、今春は福島県内の工場に多くの人材を採用し、震災前以上に人員を確保することが出来ました。

震災を振り返ると、他の企業なら別の地域に生産を移すという選択肢もあったかもしれない。しかし、タニコーは南相馬に深い“根っこ”がある。撤退はありえなかったと感じています。小高工場の再開が、福島県という地域の復興にも繋がることも信じている。

そして、地域とともに生きる地元企業だからこそ出来る取り組みで地域の経済発展、地域貢献を踏まえ、地元企業の方や地方自治体と協力して復興を目指して行きたいと考えております。

これからも当社の事業発展と同時に、雇用の創出を始めとした地域復興に貢献したいと考えております。引き続き皆様のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。